

日本形成外科学会形成外科領域専門医制度：皮膚腫瘍外科分野指導医 第 15 回認定審査について

2025 年 4 月 20 日
一般社団法人 日本形成外科学会
皮膚腫瘍外科分野指導医認定委員会
委員長 古川 洋志

日本形成外科学会は、形成外科領域専門医制度：特定分野指導医細則および皮膚腫瘍外科分野指導医施行細則に基づき、第 15 回皮膚腫瘍外科分野指導医認定審査を下記の要領で実施いたします。

1. 認定審査申請者の資格

- 1) 日本国の医師免許を有していること。
- 2) 形成外科専門医の資格を有していること。
- 3) 形成外科領域専門研修終了後もしくは日本形成外科学会専門医資格を取得後に、形成外科学会の研修基幹施設・連携施設もしくは皮膚腫瘍外科分野指導医が常駐している施設において、3年以上の研修歴を有していること。
- 4) 日本形成外科学会学術集会（基礎学術集会，各地区の形成外科学会学術集会および地方会も可〔旧称：日本形成外科学会支部学術集会および地方会〕）における皮膚腫瘍外科領域に関する2回以上の発表歴（筆頭もしくは発表指導者），あるいは皮膚腫瘍外科領域に関する1編以上の学術論文執筆歴（筆頭もしくは筆頭指導者）を有していること。
 - *学術集会の発表歴には，特別講演や教育講演などの講演歴，ランチョンセミナーなど関連プログラムでの講演歴，学術集会での座長や司会歴も含まれる。
 - *執筆指導者（発表指導者）とは，共同執筆者（発表者）の中で最も指導的立場にいる執筆者（発表者）が該当する。
 - *皮膚腫瘍の診断・治療法・病理・再建術の，それぞれの発展に寄与する発表・論文であればよいが，判断は委員会が行うものとする。
- 5) 日本形成外科学会の総会・学術集会および基礎学術集会の会期中に，日本形成外科学会が主催する皮膚腫瘍外科分野指導医教育セミナーの受講歴を2回以上有していること。

2. 認定審査提出書類

日本形成外科学会特定分野指導医細則および皮膚腫瘍外科分野指導医施行細則に基づき，以下の1)～11)の認定審査書類をご提出ください。なお，様式1～6につきましては，日本形成外科学会ホームページよりフォーマットをダウンロードして，ご使用ください。

■日本形成外科学会ホームページ URL

<<https://jsprs.or.jp/specialist/shorui/index.html#contents5>>

- 1) 特定分野指導医認定申請書（様式1）〔データ入力後，自署，捺印したものをPDFデータ化〕
- 2) 履歴書（様式2）〔PDFデータ化〕
- 3) 研修証明書〔PDFデータ化〕
 - 日本形成外科学会研修基幹施設・連携施設における研修（様式3-A）
 - 日本形成外科学会認定皮膚腫瘍外科分野指導医が常勤している施設における研修（様式3-B）

- 4) 形成外科専門医認定証 (コピー) [PDF データ化]
- 5) 業績目録 [認定審査用] (様式 4) [PDF データ化]
[業績目録の記載順に沿って、抄録集コピー等の証拠書類はすべて一つの PDF にまとめて提出]
- 6) 症例の記録 (症例記録 PPT) [パワーポイント形式で保存提出 (PDF 不可)] (見本 PPT 参照)
- 7) 10 症例チェックリスト (様式 5) [PDF データ化し提出]
- 8) 手術症例の一覧 (様式 6) [PDF データ化し提出]
- 9) 教育セミナー受講証明書 (2 回分) [2 枚をすべて一つの PDF ファイルにまとめて提出]
- 10) 認定審査料振込の領収書 (コピー) [PDF データ化]
- 11) チェックリスト [PDF データ化]

*** 6) 症例の記録 I <症例記録 PPT> 以外は、すべて上記番号順に一つの PDF ファイルにまとめて提出してください。**

*** 以上を一括して、暗号化した USB に保存し、書留に準じた方法 (レターパックなど) で委員会宛てにお送りください。**

3. 認定審査料

10,000 円を所定の口座にお振り込みください。なお、既納の認定審査料は返還いたしません。

4. 書類提出期間

2025 年 5 月 1 日～2025 年 6 月 30 日 [消印有効]

5. 書類送付先および認定審査料振り込み先

認定審査提出書類は、書留またはそれに準じる方法で委員会へ送付してください。

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 F
日本形成外科学会事務局 皮膚腫瘍外科分野指導医認定委員会 宛

※振り込みは金融機関備え付けの用紙をご使用ください。

※通信欄に「皮膚腫瘍外科分野指導医認定審査料として」とご記載ください。

【ゆうちょ銀行から送金の場合】

郵便振替口座：00140-8-51198

加入者名：日本形成外科学会 認定医認定委員会

【他の金融機関から送金の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：〇一九店 (ゼロイチキュー店)

預金種目：当座

口座番号：0051198

6. 認定審査 書類審査の実施時期

2025 年 7 月頃に実施予定です。

7. 認定審査 試験の実施時期

口頭試問認定審査 (面接時間は 9 月上旬頃を目途に連絡いたします)

2025 年 10 月 15 日 (水) 13:00 開始予定 (申請者数によって開始時間が前後する可能性があります)

※第 34 回日本形成外科学会基礎学術集会前日に行う予定です。(鹿児島)

8. 認定審査の結果の発表および登録

認定審査の結果は、皮膚腫瘍外科分野指導医認定委員会が理事長に報告し、理事会の議を経て申請者に通知します。合格者は、認定登録料 10,000 円を所定の口座にお振り込みください。認定登録料の納付を確認した後、皮膚腫瘍外科分野指導医資格名簿に登録のうえ公示します。認定証は、追って本人に送付します。

9. 申請書類記入・作成に関する注意事項

- 1) ダウンロードした書類に作成してください。
- 2) 年号の記載は西暦を用いてください。
- 3) 研修証明書について、研修した施設によって以下の通り、様式が異なります。
(様式 3-A)・・・日本形成外科学会の研修基幹施設・連携施設の場合
(様式 3-B)・・・日本形成外科学会の皮膚腫瘍外科分野指導医が常勤している施設の場合
- 4) 業績目録〔認定審査用〕(様式 4) に併せて、
学術集会プログラム抄録集の表紙(会期・集会名の明記されたもの)、および申請者の発表(講演)が掲載されているページのコピー
論文の最初のページ(題名と執筆者が記載されている)のコピー
を添付し、該当申請者名に下線を引いてください(業績については本会入会後のものとします)。
- 5) 症例報告(症例記録, 手術症例の一覧表)を作成する際、以下の点にご留意ください。
(症例については本会入会後のものとします)

・症例報告として、見本の 10 症例パワーポイントを参照の上、症例記録 10 症例、手術症例の一覧表 100 例(様式 6)を提出してください。症例は執刀例、指導的助手担当例に限ります。特定分野指導医細則第 3 章第 6 条に該当する研修施設以外で行われた症例も報告できます。

・**症例記録(10 例)**は、術前、デザイン(シエーマでも可)、病理組織、術後 6 ヶ月以上経過の写真が必要とします。

術中、術直後の写真(必要あれば CT, MRI 画像など)も可能な限り提出してください。

写真はパワーポイント形式で作成し、**その他の申請書類一式(PDF データ)と症例記録(パワーポイント)を同じ暗号化機能付 USB メモリー内**に保存して提出してください。

※ 1 症例 1 パワーポイントではなく、10 症例 1 パワーポイントになるように保存してください。

※ 提出した暗号化機能付 USB メモリーは、面接試験時に手渡しで返却します。

※ 暗号化したパスワードは以下のような内容のメールで事務局(jsprs-office01@shunkosha.com)まで通知してください。

件名：【2025 年度皮膚腫瘍外科分野指導医書類提出】形成太郎

本文：皮膚腫瘍外科分野指導医申請書類のデータを本日 USB にて送付いたしました。

USB のパスワードは「〇〇〇〇」です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

形成太郎

悪性腫瘍の症例では、TNM 分類を記載してください。

なお、原本は申請者が責任をもって保管してください。

※病理組織は説明文を 40 文字程度で記載してください。

・**症例記録(10 例)**は、下記手術が該当します。

申請者が執刀した(指導、指導的助手も含む)皮膚腫瘍外科としての経歴の中で、代表的な症例を提出してください。

i) 疾患の条件

上皮系, 付属器系, 神経外胚葉・神経堤系, 間葉系の各種良性および悪性皮膚・軟部組織腫瘍を対象とします。

(本会告最終ページの別表またはホームページ掲載のQ & Aをご参照ください)

※皮膚・皮下組織・軟部組織以外の頭頸部腫瘍(舌癌など), 先天奇形(副耳), 血管腫血管奇形(摘出以外の術式の場合), 乳癌, ケロイド, 肥厚性瘢痕, 慢性膿皮症などは除く

ii) 術式の条件

他診療科が切除した後に, 再建を担当した症例においては, 切除に関する十分な知識を必要とします。

a) 植皮を施行した皮膚腫瘍外科手術

b) 局所皮弁/有茎皮弁を施行した皮膚腫瘍外科手術

c) その他

- ・分割切除や神経, 血管束の剥離を施行した皮膚腫瘍外科手術
- ・遊離皮弁を施行した皮膚腫瘍外科手術
- ・皮膚腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検(色素法, 蛍光色素法またはRI法)
- ・皮膚腫瘍に対するリンパ節郭清術(頸部, 腋窩, 鼠径部)など

注1: 上記a), b)は必須の手術例です。

a)とb)の症例の合計が5例以上(うち執刀が3例以上)必要です。

ex. a)4件とb)1件→OK a)5件とb)0件→NG a)0件とb)5件→NG

注2: 同一症例を, 上記a)~c)の複数のカテゴリーにて提出することはできません。

注3: 悪性腫瘍は最低でも5例以上必要です。

注4: 同一部位で, かつ同一腫瘍の症例は2例までとします。

iii) 部位の条件

被髪部, 顔面部(眼瞼/眼角部, 鼻部, 耳部, 頬部, 口唇部等), 手指部の症例が計5例以上必要です。

・手術症例の一覧表(100例)は, 下記手術が該当します。

i) 疾患の条件

上皮系, 付属器系, 神経外胚葉・神経堤系, 間葉系の各種良性および悪性皮膚・軟部組織腫瘍を対象とします。

(本会告最終ページの別表またはホームページ掲載のQ & Aをご参照ください)

術式, 部位の条件はありません。

なお, 症例記録(10例)と同一症例を提出することはできません。

また, レーザー治療, 硬化療法も症例として提出することはできません。

10. 申請書類記入上の注意

10 症例

1) 資格審査・口頭試問の対象になります。

2) 平易な手技【複雑な操作を伴わない一次的切除】の症例はマイナー症例とみなします。

10 症例中, 2 症例以上にマイナー症例がある場合には, 原則として不合格といたします。

皮膚腫瘍外科分野指導医を取得するための試験のため, 指導医にふさわしい代表的な症例を提示してください。

平易な手技の例: 良性腫瘍, 粉瘤, 色素性母斑, 皮下脂肪腫などの局所下での単純切除・単純縫合など

3) 認められない術式の条件例

平易な手技，レーザー治療，硬化療法，乳房再建など

※疾患としては問題ないけれども切除の仕方によっては不合格になることがあります。

注：委員会において，症例報告（症例記録，手術症例の一覧表）としてふさわしくない症例として認定された場合は，書類審査が不合格となりますので，ご注意ください。

詳しくはホームページ上の以下の URL に掲載されている Q & A ならびに，日形会誌 2023 年第 43 巻 12 号会告「第 13 回皮膚腫瘍外科分野指導医認定審査の講評」，日形会誌 2024 年第 44 巻 12 号会告「皮膚腫瘍外科分野指導医認定審査についてのご案内」をご参照ください。

<https://jsprs.or.jp/specialist/tokutei_supervisor/hifu_shuyo/doc/hifuQA.pdf>

<https://jsprs.or.jp/member/committee/wp-content/uploads/2023/12/24_hih_kai_100.pdf>

<https://jsprs.or.jp/member/committee/wp-content/uploads/2024/12/24_hih_kai_105.pdf>

11. 問い合わせ先

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 F

日本形成外科学会事務局 皮膚腫瘍外科分野指導医認定委員会 宛

E-mail : jsprs-office01@shunkosha.com

お問い合わせは，E-mail にてお願いいたします。

